

宮城山岳通信 第18号

目次

巻頭言	富塚和衛 1~2 頁
定例役員会報告	事務局 2~3 頁
宮城支部山行報告	
☆ヨーロッパアルプストレッキング (共益事業山行)	草野洋一 3~5 頁
☆夏山山行 : 南八ヶ岳縦走 (共益事業山行)	富塚和衛 5~6 頁
☆第9回親子登山教室 (達居森) (公益事業山行)	遠藤銀朗 6~7 頁
山行以外の宮城支部行事開催報告	
☆日本山岳会東北北海道地区集会特別委員会報告	千石信夫 7~8 頁
☆宮城支部ビールパーティー開催報告	木皿 謙 8 頁
宮城支部以外の日本山岳会関係行事参加報告	
☆全国自然保護集会参加報告	高橋二義
☆全国支部合同会議参加報告	富塚和衛
令和元年10月~令和2年1月の行事予定	事務局
編集後記	遠藤銀朗

巻頭言 「高嶺の花」

支部長 富塚和衛

「高嶺の花」を辞典で引くと「遠くから見るだけで、手に入れることの出来ないもの。憧れだけで、自分には程遠いもの」とある。後段は「もの」を「人」に置き換えれば思いだされる出来事のある人も居られるだろう。前段の「もの」を「花」に置き換えれば、将に、高山植物を差すのではないだろうか。

7月初旬に、数人とヨーロッパアルプスのチロル、ドロミテトレッキングの旅に行つて来

た。時はアルプ（東アルプスではアルムとも言うらしい）に高山植物が咲き誇る時節である。ヨーロッパアルプスには三大名花と呼ばれる「高嶺の花」がある。一つは、映画「サウンドオブミュージック」でジュリーアンドリュースが歌う歌詞にある「エーデルワイス（白）」、二つ目は、リンドウの仲間「エンツィアン（青紫）」、三つ目がツツジの仲間「アルペンローゼ（赤）」だ。これまでにエンツィアンとアルペンローゼは目にしたことがあったが、峻険な石灰岩の岩場に自生すると言うアルプスの女王「エーデルワイス」をある山のゴンドラ山頂駅のプランターで目にすることが出来た。自然に咲く花ではなかったが、その存在感は、将に、「高嶺の花」に相応しい凛々しさを感じたものだ。日本にも、高山に咲く花の三大名花がないかと調べてみたが、それらしき花は無い。本邦では「コマクサ」が「高山植物の女王」、エゾツツジが「高山植物の王様」と呼ばれているくらいだ。私的には、「コマクサ」・「ツクモグサ」・「ウルップソウ」が、高山植物三大名花と言ったところか。

登山の楽しみには、種々あるだろう。例えば、岩場登攀、雪山山行、山頂からの景色、登山者との出会い、山小屋の宿泊体験、登山の服装・装備、登山計画の立案、高山の動・植物との出会い等々、十人十色の楽しみ方があるのではないだろうか。私の楽しみの一つは、高山植物との出会いだ。今では、歳には勝てず、花の名前も忘却するばかりだが、森林限界を超えハイマツの上部の環境の厳しい高山帯で健気に咲く花に出会うと、疲れも吹き飛び、心が癒される感じがする。

高山植物は、学者によれば種子植物、被子植物を合わせて 574 種類を数えると言う。このうち、シラネアオイ、ツクモソウ等の日本の固有種は 33%に過ぎず、シベリアやアラスカなど北方の寒冷地域に本拠地をもつ植物が殆どで、サハリンや千島列島を經由して我が国に伝わったのだそうだ。代表的な例として、ウルップソウ、チングルマ、クロユリが挙げられる。この高山植物も強風地や残雪地で棲み分けしている。強風地ならトウヤクリンドウ等の風衝草原、イワウメ等の風衝矮低木群落、コマクサ等が咲く砂礫地に現れる高山荒原植物群落である。残雪地周辺ならチングルマ等の雪田植物群落やハクサンコザクラ等が咲く湿性草原等である。高山植物のお花畑は森林限界の上部に形成される。高緯度ほど森林限界は下がる。垂直分布は 1 km北上するごとに 1m 下がると言われている。日本 100 名山にチャレンジ中にクロユリでそれを実感した。クロユリは南アルプスでは宝剣岳の千畳敷(2,500m)カールに、月山(1,900m)山頂に、利尻岳(1,721m)では海岸近くの庭先に咲いていた。植物は環境に敏感だ。地球温暖化の影響を受けなければ良いのだが。

定例役員会議事録

☆令和元年 9 月定例役員会議事録

日 時：6 月 26 日(水) 18:30~20:30

場 所：仙台市シルバーセンター 5F 会議室

出席者：富塚支部長、遠藤副支部長、草野、
柴崎、佐藤、横山、富塚（真）、鈴木、
高橋、千石 計 10 名

《報告事項》

(1) 総務・財務委員会からの報告

①山岳関係機関からの受理状況

- ・令和元年度支部運営交付金について
- ・令和元年度支部合同会議議題案について
- ・北海道庁から登山自粛要請について

②宮城県生活環境部への世界谷地湿原保全作業に関する回答について

(2) 山行集会委員会からの報告

- ①ヨーロッパアルプストレッキング実施結果
- ②8 月夏山山行（南ハケ岳）実施結果

- ③第9回親子登山教室実施計画
- (3) メディア委員会からの報告
 - ①ホームページリニューアル作業進捗状況
- (4) 自然保護・科学委員会からの報告
 - ①全国自然保護委員会参加報告
- (5) 第35回東北北海道地区集会特別委員会からの報告
 - ①蔵王古道下見山行結果
 - ②配布資料編集進捗状況
- (6) 他委員会等からの報告
 - ①宮城山岳通信第17号の発行報告及び第18号の発行予定
 - ②ビールパーティ実施結果

- 《審議事項》
- (1) 会員逝去時の支部弔意に関する内規について
 - ・内規として定めることを承認。但し、事後に役員会に報告する旨の規定を追加の事。
- 《その他》
- (1) タウン誌「仙台ぱど」掲載について
 - ②会員等の退会情報について
 - ③役員会の開催時刻について
 - ・従来の18:30から18:00に変更
- 以上の事項について承認または了承される。
- (事務局報告)

宮城支部山行報告

☆ヨーロツパアルプス・トレッキング

(共益事業山行)

- ・実施日：令和元年7月5日(金)～15日(月)
- ・山域：チロル、ドロミテ（オーストリア、イタリア）
- ・コース：南蔵王青少年旅行村駐車場より南200m先の国道113号沿い林道口出発—林道—林道終点—登山口—最高地点—蛤山山頂（葉山神社）—（同コース下山）—国道113号沿い林道口帰着
- ・参加者：（会員）千葉正道（リーダー）、富塚和衛、鳥田笑美、草野洋一
（支部友会会員）佐鳥田伊志
（一般）高橋 彰、千葉誠一
（計7名）
- ・報告者：草野洋一

七月初旬にオーストリア、イタリア・アルプスのチロル、ドロミテ地方の山へ千葉正道会員をリーダーに7人でトレッキングして

きました。

○5日(金) 6人が仙台空港に集合して成田空港へ。千葉誠一さんと成田空港で合流。10時10分発スイスエアラインズ航空でチューリッヒ国際空港に15時35分着（現地時間、時差7時間）。マイクロバスでオーストリアでもスキーリゾートとして有名なチロルのSt. Anton am Arlberg（ザンクトアントン＝標高1,284m）のホテルGRIESHOFFに19時30分チェックイン。

○6日(土) 快晴 ガルツィヒ・ロープウェイとvallugaゴンドラと二本のリフトを使ってValluga峰(2,811m)山麓をトレッキング。草原、松林などの樹林帯の中、遠方には雪をかぶった山々を見ながら歩く。下山途中、日本びいきの山小屋 Senn Hutte に立ち寄り、地ビールとスープと黒パンで遅い昼食をとる。ホテルへ帰る途中で「スキーと郷土博物館」を見学。15時30分ホテル。夕食までに時間があるので何人かは地下のプール、サウナにはいる。

○7日(日) 晴一時雨 朝方一時雨だったが

その後晴れる。ホテルそばのバス停から30分余で欧州の王室もやってくるというレッヒの街へ。オーバーレッヒ方面に散策する組とゴンドラで Rufikopf (2,363m) の展望台に行く組に分かれる。12時11分のバスでホテルに戻る。

午後、Gampen bahn のリフトで Kapall (2,326m) へ向かうも強雨で13時30分、レストハウスで雨宿りをかねて昼食をとる。そのあと Kapall bahn のリフト2本を乗り継いで行くも雨脚が強く、2本目のリフトを下へ降りると雨も止んだので14時50分に街までトレッキング。ホテルに17時10分着。

○8日(月) 晴一時雨 8時50分、専用車でインスブルックに近い Neustift (標高1,000m) へ。ホテル BERGJUWEL に10時20分にチェックイン。荷物をおいてゴンドラ Elfer bahn を使い、降りて11時すぎに出発。Elfer hutte (2,080m) に11時52分着。主峰は Elfer (2,505m)。我々はトレッキングコースに向かう。ランチの時間だったが空模様がよくないので先を急いだ。案の定、途中で雨合羽を着る天気となった。コース左側には谷を挟んで大岸壁が何百メートルと続いていた。谷に下りて Pinniss hutte (1,557m) に14時20分に着いた。ここでスープとパンと牛乳で遅い昼食をとる。ここから川沿いに歩いてホテルに17時20分着。夕食はホテルから歩いて数分のレストラン「Bergkonig」でディナー。

○9日(火) 快晴 ホテル近くのバス停から Top of Tyrol へ。9時20分、終点の Mutterberg ゴンドラ乗り場着。Stubaiier gletscher bahn のゴンドラと3本のリフトを乗り継いで10時10分、Top of Tyrol (3,210m) に到達。周囲は3,000m級の山並みが連なりゆっくりと展望を楽しんだが気温が10度前後と寒かった。周辺は残雪が多く、夏スキーができる雪渓が広がっていた。11時下山。コースは雪渓、ザラ場などのアップダウン。横切る沢は雪解けで流量多く、流れが速い。12時50分、Dresdner hutte で休憩してバスが出るゴンドラ乗り場へ。14時30分のバスに乗り、15時10分、ホテル着。ホテルのケーキとティ

ー・コーヒーを楽しむ。夕食は昨日と同じレストランでディナー。

○10日(水) 快晴 8時40分、チャーターしたバスでイタリアのドロミテ山域の中心地 Cortina Dampezzo (1,210m) へ向かう。途中、セラ山群の最高峰 Piz Boe (3,152m) 山に登るため11時25分、ポルドイ峠 (2,239m) からゴンドラに乗る。12時登山開始。一部残雪の残る登山路で13時58分、Piz Boe 山頂。360度に広がるドロミテ山群の眺望を楽しんだ。山頂 hutte で昼食。15時、下山。16時35分、ゴンドラ乗り場着。17時に専用車に乗り、18時20分、ホテル TRIESTE にチェックイン。

○11日(木) 晴 8時38分のバスで「ドロミテの真珠」といわれるミズリーナ湖へ。しばし風景を堪能して再びバスに乗り、三つの岩峰(ピッコロ、グランデ、オヴェスト)で有名な Tre cime (2,999m) = ドライチンネンへ向かう。人気コースとあって道路は渋滞。登山口のオウロンツォ小屋 (2,320m) を出発したのは10時55分。岸壁をロッククライミングしているクライマーを見ながら12時30分にロカッター小屋 (2,405m) に着いて昼食をとる。ロカッター小屋はイタリア山岳クラブ(CAI)が7~9月の間だけ運営しているという。13時30分に出発。Tre cime を一周する裏側のコースを歩く。途中、高山植物の花の群落を見ながら登山口の小屋に16時着。16時50分発のバスに乗り、コルチナのバス停に17時50分着。

○12日(金) 曇 8時45分のバスで Cortina Dampezzo をはさんで Tre cime の反対側にあるファルツァレーゴ峠 (2,105m) へ。峠からゴンドラでラガッツオーイ小屋 (2,752m) へ。主峰はラガッツオーイ (2,989m)。ここは第一次世界大戦でオーストリアとイタリア軍の激戦地として塹壕等が保存されている。下山途中、モーマットの親子連れが食んでいるのを見ながら峠のバス停へ。12時20分のバスで Cortina へ戻り、ホテルで一休みして午後は皆と市内見物。

○13日(土) 晴 ホテルを9時にチャーターバスで出発。ベネチアに向かう。11時25

分、ホテル PLAZA に到着。ベネチアの街のガイドをしてもらうエリザベッタさんが出迎えてくれる。昼食はエリザベッタさんお勧めの路地裏にあるレストランでパスタボンゴレ等を食す。路地裏を歩いてサンマルコ広場へ出る。ここでお茶する組とオペラハウスの Al Teatro の場内を見学する組に分かれる。17 時からエリザベッタさんの計らいで、作曲家ビバルディが隣に住んでいたというサン・ピエタ教会で The Tiffin girls' school による合唱団とシンフォニーの演奏を一時間余聞いてホテルに帰る。

○14日(日)晴 午前は近くのスーパーマーケットへ行くなど自由行動。15時30分発ベネチア・マルコポーロ空港からウィーン空港で乗り継いでオーストリア航空 18 時発の便で成田空港へ。

○15日(月)晴 11時55分(日本時間)成田空港着。千葉誠一さんは空港から自宅へ。6人は16時発 ANA で仙台 17 時着。全員元気で帰仙、空港で解散。

連日のトレッキング(最長は6時間20分)で、どのコースも周囲の山並みを見ながらの十分にアルプスを堪能した日々でした。主なトレッキングコースには番号がついて、分岐点などに表示されている。チロルは山麓が緑の絨毯とっていいほどの牧草地が広がっていて、牛はあちこちで草を食んでいる。そして街の中をゆったりと牛舎へ帰っていく。車も歩行者も通り過ぎるまで待っている。対照的にドロミテ山群は急峻な山並みが目前まで迫っていて迫力があつた。ホテルは谷あい集中し、高くても4、5階建て。どのホテルも窓、ベランダには花が飾ってある。冬のハイシーズンと違って夏はロウシーズンで宿泊者は多くはなかったが、トレッキングコースのハイカーは多かった。ホテルでの朝食、夕食はおいしかった。今回の山旅は通訳、ガイドなしでリーダーの千葉正道会員には飛行機、ホテル、バス、コース選定などですっかりお世話になりました。

☆夏山山行(南八ヶ岳)

(共益事業山行)

- ・実施日:8月3日(土)~5日(月)
- ・山域:南八ヶ岳
- ・コース:美濃戸口→赤岳山荘(泊)→赤岳鉱泉→硫黄岳→硫黄岳山荘(昼食)→横岳→赤岳→赤岳頂上小屋(泊)→行者小屋→赤岳山荘→美濃戸口
- ・参加者:(会員)草野洋一、遠藤銀朗、冨塚眞味子、冨塚和衛、太田正、加藤知宏(支部友会会員)村上敏郎、蔭山美緒子、針生紀子、多田孝徳、佐藤富士子(計11名)
- ・報告:冨塚和衛

今年で5回を数える夏山山行を南八ヶ岳で、昨年と同様の時期に実施した。ハプニングもあったが、好天の下での山旅を楽しむ事が出来た。

○8月3日(土)

5:40 仙台駅東口駐車場に集合。3台の車に分乗し美濃戸口に向かう。途中のSAで朝食、昼食を白樺湖の蕎麦屋で摂る。お昼過ぎからゲリラ豪雨を思わせる土砂降りの雨に見舞われるが、美濃戸口着く頃は雨も上がる。狭い砂利道を美濃戸口から登山口の美濃戸に向かう途中にハプニングが起きた。すれ違いのためにバックした冨塚車が沢に落ちてしまったのだ。幸い怪我はなかったが、車は鼻を天に向け身動きが出来ない状況になってしまった。JAFに救助を要請して事なきを得たが、予定は大幅に遅れ、予約していた赤岳鉱泉をキャンセルし、急遽、美濃戸の赤岳山荘にお世話になることにした。お蔭で、夜はこの予期せぬアクシデントに花が咲き深酒となってしまった。

○8月4日(日)

遅れを取り戻すため、6時前に赤岳山荘を出発する。8時前に赤岳鉱泉到着。此処で体調が優れない冨塚(真)会員、針生支部友(赤

岳鉦泉から行者小屋に直行し宿泊)を残し、南八ヶ岳縦走に向かう。シラビソの樹林帯の中を柳川の北沢沿いに硫黄岳を目指す。森林限界を抜けた処に位置する赤岩の頭で一休み。此処からは視界が一気に開け、八ヶ岳のパノラマを楽しみながらの稜線歩きとなる。硫黄岳(2742m)から緩やかにオシュレットがある硫黄岳山荘へと下り昼食を摂る。

山荘から八ヶ岳で最も花が豊かな横岳(2829m)へは縦走コースでも難所が待ち受ける。梯子と鎖を使い稜線の左右へ行ったり来たりしながら高度を稼いで行くと奥の院と言われる横岳山頂に着く。時期が合えばウルップソウやツクモグサ見られる花の宝庫の稜線伝いに三叉峰・日ノ岳と過ごし下って行くと赤岳天望荘に辿り着く。此処で一休み。昨晚の深酒が影響しているのか足取りが重い人も現れ始める。

息を整えて赤岳北峰に建つ今宵の宿赤岳頂上小屋を目指す。待ち受けるのは最後の難所となる急斜面。喘ぎながら歩みを進め、やっとの思いで頂上小屋に辿り着く。ザックをデボして赤嶽神社がある南峰(2899m)に向かう。此処で記念写真を撮り戻って小屋にチェックインする。時刻は16時を過ぎていた。10時間もの長丁場の山行となってしまった。やはり昨日のアクシデントの影響が出てしまった。

それでも、夕食ともなれば、一日の疲れを癒してくれるビールは欠かせないとばかりに複数杯飲む兵も。

○8月5日(月)

6:00から皆で朝食を頂く。頂上小屋の食堂は抜群のロケーションにある。窓越しに朝靄に霞む富士山が見て取れる。富士の山を拝みながらの朝食もまた乙なものだ。朝食後、早々、昨日分かれた2名が待つ行者小屋へと向かう。一旦、中岳に向かい文三郎尾根ルートに道を取り、一気に行者小屋へと下る。行者小屋でコーヒーを飲みながら一休みする。

左に阿弥陀岳(2805m)を見ながらシラビソ林の中を南沢沿いに美濃戸に下る。赤岳山荘に立ち寄り冷やして貰っていた太田・富塚農園で育て持参したトマトを頬張りながら、南

八ヶ岳縦走を振り帰り、恒例の夏山山行は無事終了した。

☆第9回親子登山教室(達居森)

(公益事業山行)

- ・ 実施日：令和元年9月22日(日)
- ・ 山 域：宮城県黒川郡大衡村・大和町、達居森(262m)
- ・ コース：野ダム堤体下駐車場(集合)→達居森新登山口→新登山道コース→肩の広場着→達居森頂上→達居森展望台→新道・旧道分岐点→208m峰展望台→旧登山道コース→旧登山口下山→牛野ダム堤体下駐車場
- ・ 下山後に牛野ダム堤体下駐車場にて参加者全員で芋煮会を開催
- ・ 参加者：(会員) 富塚和衛、太田 正、草野洋一、高橋二義、三宅 泰、横山 哲、富塚眞味子、遠藤銀朗(支部友会会員) 川島郁子、津久井宏、津田久美子、針生紀子(応募参加者) 8家族 29名の申し込みが当日3家族の10名キャンセル、5家族19名(保護者8名、子供11名)(計31名)
- ・ 報告者：遠藤銀朗

実施当日の天候は曇りであったが、午後より雨との予報が出ていたため現地9:00集合の当初予定を前日に変更・連絡し、8:30に牛野ダム堤体下駐車場に集合。開講式で富塚支部長の挨拶、教室スタッフの紹介と登山ルートの説明および準備体操を行ったのちに達居森新登山口に向かう。

8:50に新登山口より登山開始。9:10に新登山コース肩の広場に到着。休憩を取りながら草野会員より「登山における注意」「登山の楽しみ方」および「スズメバチ対策」についての第1回目の授業がなされた。9:35見晴らし峠通過、9:45達居森山頂到着し参加者全員で

記念写真を撮影。

10:00 展望台到着。ここでは、「山での基本的な歩き方」および「達居森の地名の由来と自然」について第2回目の授業が遠藤会員によりなされた。大衡村・大和町・富谷市・仙台市そして七つ森の眺望と泉が岳・船形山（これらは一部雲の中であったが）の景観を楽しんだ後に、再び参加者全員で記念写真を撮影した後、10:25に下山を開始。

10:45に208m峰展望台への分岐点を通り10:55に旧道展望台に到着。その先の東屋まで行く予定であったが、途中に「スズメバチ営巣のため通行禁止」のテープがあり旧道新道分岐点まで引き返し、その後は計画通り旧道を下り11:15旧道登山口に下山。

旧道登山口付近で、参加した子供たちとともに秋の木の実（栗の実、ガマズミの実およ

びアケビの実）採りを楽しんだのち、11:30に牛野ダム堤体下駐車場に帰着。

11:30から牛野ダム堤体下駐車場空き地において参加者全員で芋煮会を開催。高橋二義会員・三宅泰会員・冨塚真味子会員および針生紀子支部友が大鍋で作ってくれた美味しい芋煮を味わいながら楽しく歓談した。（この間、子供達は葛のつるを探してきて綱引きに夢中。）しばし歓談後、宮城支部の活動紹介を行い冨塚支部長の閉会の挨拶を行って、少し早めではあったが降雨前の12:30に現地解散とした。

今回開催の親子登山教室は、子供達に登山の方法や注意点を教えるだけでなく、山の自然に触れる喜びそして山の恵みなど、登山の楽しさについて総合的に伝えることができた登山教室であった。

山行以外の宮城支部行事開催報告

☆日本山岳会東北北海道地区集会特別委員会報告

・報告者：千石信夫

平成30年の10月の役員会にて次回開催の宮城支部担当である東北・北海道地区集会についての検討がなされ具体的に準備作業を進めることとなった。その後準備委員が選任され、第35回東北・北海道地区集会特別委員会として組織された。そのメンバーは特別委員長に千石信夫、事務局に冨塚和衛 委員に遠藤銀朗、冨塚真味子、高橋二義、佐藤昭次郎、千葉正道、太田正、草野洋一と決まった。

12月には第1回の特別委員会が開催され、最近の開催された各支部の資料などを参照し日程、場所、講演会などの意見を出し合った。第2回では、場所の選定では交通事情、宿泊事情などの条件をふまえて、様々な案が出されたが、冨塚支部長から昨年個人的に参加した蔵王古道の案が出され、地元蔵王町の観光にも貢献できることと、さらに古道の会の協力も得られることで、開催地として決定した。日程は10月5～6日とした。蔵王古道の会に今回の事業についての後援もお願いをし、快諾を得ることができた。今回の交流山行について懸案事項は紅葉シーズンの渋滞が予想されること。そして、古道ルートの一部にエコラインの横断箇所があり道路交通法上の規制対応であった。

8月24日には蔵王古道の会主催の「蔵王御山詣り」に参加して下見山行とし、本番に向かってルート確認や現地の状況を把握し大いに参考となった。

10月5開催の講演会は、蔵王町の教育委員会のご協力をいただき社会教育主事の佐藤洋一様に講師としてお願いした。演題は「蔵王の信仰の歴史と蔵王古道」、一般の方々も参加できる講

演会とした。

古道の会からの応援としては先達7名の方々と一緒に歩いていただくことになった。

そのほかには救護班として山口医院の看護師さん2名、車で待機していただくことになり大変ありがたく感謝申し上げたい。さらには、参加者の中に二口山歩会の皆さんも参加いただき交流ができることになった。

今回の集会は、各方面のあたたかい支援を得た開催となったが、あくまでも我が宮城支部主催であるので、特に交流山行については我が支部が責任と自覚をもって進めることを申し合わせた。9月20日に最終の打ち合わせを行い全7回の特別委員会が終了した。

現時点で、台風18号の影響も予想されたが、大きく崩れることがないようである。無事下山し集会の盛会を祈念して特別委員会の報告といたします。

☆ 令和元年度宮城支部ビールパーティー開催報告

・報告者： 木皿 謙

地球温暖化が叫ばれその深刻さも年と共に増してきている作今この暑さを吹き飛ばす対策？の一つJAC宮城支部恒例のビールパーティーが、これも例年通り仙台駅近くのホテルJALシティで15名の参加を得て華々しく開催されました。

昨年のビールパーティーの報告で「人数と予算の関係で会場が雑然として・・・」との口説き駄文がホテル側に聞こえたらしく今回はキッチンとした個室が用意されており、じっくり落ち着いた雰囲気で開催されました。参加者は、最近右肩下がりで減少気味でしたが、会場の所為か昨年より若干増えて15名のご参加を頂き担当して何よりの喜びです。

千田早苗氏の発声で乾杯。今年の主題は支部創設60年を記念しての台湾玉山遠征の話題が中心で、草野洋一会員からはチロル・ドロミテ地方のヨーロッパアルプストレッキングの記録報告もありました。

参加の皆様スピーチにあった通り、恒例のビールパーティーが当支部行事の大きな柱になっていることを痛感させられた集まりでした。来年の盛会も併せて念じつつ、めでたく閉会。参加者各位に感謝いたします。

宮城支部以外の日本山岳会関係行事参加報告

☆ 令和元年度自然保護全国集会参加報告

- ・参加者： 高橋二義、宇都宮
(計2名)
- ・報告者： 高橋二義

☆ 令和元年度支部合同会議参加報告

・報告者： 支部長 富塚和衛

令和元年度支部合同会議が9月28日（土）、29日（日）プラザ・エフ（東京都千代田区）を会場に開催された。会議の概要は次の通り。

《1日目》

（1）古野新会長挨拶

★所信は「山」7月号に記載した通り。他に山岳文化の伝承に力を入れたい。

（2）会務報告

担当理事から資料に基づき説明あり。

★「山の天気ライブ授業」について

★登山計画書提出状況と事故事例について

・高低に関わらず全ての山が対象

★準会員制度について（アンケート結果）

★自然保護委員会報告について

・年次晩餐会での自然保護活動展示

★公益法人について

・公益法人の再認識

★会計報告と寄付の取り扱いについて

★全国の「古道踏査」事業について

★会員名簿について

・支部名簿の作成・配布は困難

・各支部で、支部員名簿を作成し、配布する場合は本人の直接同意、利用範囲と管理・保管方法、期限を明らかにしておくこと（刑事罰の対象）

・電子媒体での送受信は厳禁。

（3）質疑応答

★新準会員への個人情報の支部への提供←個人情報保護法により困難

★荒廃する登山道への対応←本部で検討

★謝礼の扱いは←報酬費になる。

★特定できない本部からの支部受信者対策としての新支部長就任時のパスワード変更←本部で検討する。

《2日目》

（1）120周年記念事業について

★ヒマラヤキャンプ2020について

★グレート・ヒマラヤ・トレイルについて

★JAC発行の機関誌、登山報告書等のデジタル公開について

・支部の会報等のデジタル化を要望（宮城支部）←本部で検討

★支部アドレスを使った支部とのメール交信にエラーが生じる問題について

★募集型登山と旅行業法の関係について

（2）事務連絡

★支部代表アドレスに関して

★各種届に関して

- ★入会に関して
- ★物故に関して
- ★グッズに関して
- ★刊行物、発刊物について

(3) その他

- ★医療委員会講演会
- ★第36回全国支部懇談会のご案内
- ★テント、無くなりました。
- ★廃ロープ提供のお願い
- ★第60回小暮祭のお知らせ

日本山岳会宮城支部の令和元年7月～令和元年10月の行事予定

- | | |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ◎2019年10月 <ul style="list-style-type: none"> ☆10月5日(土)～6日(日) 第35回東北・北海道地区集会 ☆10月初旬 宮城山岳通信第18号発行 ☆10月18日(金) 定例役員会(仙台シルバーセンター) ☆10月19日(土)～20日(日) 秋田支部設立60周年記念祝賀会
(乳頭温泉、鶴乃湯) ◎2019年11月 <ul style="list-style-type: none"> ☆11月10日(日) 第10回登山教室(山域未定) ☆11月12日(火) 定例役員会(仙台シルバーセンター) ◎2019年12月 | <ul style="list-style-type: none"> ☆12月1日(日) 初冬山行 ☆12月7日(土) 本部晩餐会・支部連絡会議
(東京、京王プラザホテル) 定例役員会(仙台シルバーセンター) ☆12月15日(日) 支部晩餐会(シェルブール仙台) ◎2020年1月 <ul style="list-style-type: none"> ☆1月元旦 泉ヶ岳元旦登山(有志) ☆1月上旬 宮城山岳通信第19号発行 ☆1月15日(水) 定例役員会(仙台シルバーセンター) ☆1月26日(日) 冬山山行(山域未定) |
|---|--|
- (事務局)

編集後記

「宮城山岳通信第」は、できるだけタイムリーに日本山岳会宮城支部の活動の内容を支部関係の皆さんにお伝えするニュースレターとして発行することにしておりますが、今回の第18号の発行は編集の遅れによって予定より10日ほど遅れての発行となってしまいましたことをお詫びいたします。

編集委員会といたしましては、できるだけこのような遅れがないように編集と発行を行うよう努力したいと考えておりますが、支部関係者の皆様のご協力とご支援がなければ編集委員会だけの力では叶えることができないことでもあります。今後とも会報発行に対する宮城支部の皆さんのご支援を宜しくお願い申し上げます。

会報編集出版委員長 遠藤銀朗

宮城山岳通信

発行 公益社団法人日本山岳会 宮城支部

発行日 2019年10月15日、 発行人 富塚和衛

編集出版委員 遠藤銀朗、千石信夫、富塚和衛、細川光一、三宅 泰

事務局 983-0821 仙台市宮城野区岩切畑中9-12 Tel・Fax 022-255-7398